

風

富田守男
① (現場) からの

梅雨の時期は曇りの日や雨の日が多くなる。日々の生活でもさまざまな影響を与えてくる。田舎の終わつた時期には水の管理も

軽減され、昔は「農休み」が取れると梅雨の時期を楽しんだものだ。梅雨は、北海道と小笠原諸島を除く日本・朝鮮半島南部、中国の南部から長江流域にかけての沿海部、および台湾など東アジアの広範囲においてみられる特有の気象現象だとの定義があるが、北海道の気象現象の情報を聞くと、温暖化の影響が北海道には梅雨がないとの知識は薄れてしまふ。

梅雨の雨の降り方は地域差があり東日本では「雨がしとしと降る」「それほど雨足の強くない雨や曇天が続く」と解説されているが、西日本では、積乱雲が集まり激しい雨をもたらす災害に最大限の注意を払う必要がある。これまでも梅雨明けには、集中豪雨による災害を幾度となく私たちの地域でも経験している。最大限の注意を払いたいものだ。

梅雨の楽しみを創造してみよう

この時期に大きな傘をさしながら楽しもうに通学する子供たちの姿に出会う。詩人の杉本深由紀さんの詩「傘」の一編に小さい子供たちだろうか、4人が肩を寄せ合う姿を傘という一つの漢字から「傘」という字は、あたたかい、おほいりなさい、きみも、あなたも、人々ねえみんな、つめてあげて。3人が詰めて、あと一人入れば

と抑うつ状態になると言われている。人がうまく生きていくには、自分についての楽観的な幻想も必要だと米国の心理学者も分析している。

駐日大使も務めた仏詩人のクロードルさんは「目もたぬ、耳もたぬ、歯もたぬ、足もたぬ、呼吸もおぼつかない、それらのもの無しでも満足に生きていける」といのは驚くべきことである。と高齢者のしあわせな老後の過ごし方があると毎日新聞のコラム余様さんが紹介している。毎日何気なく使う言葉の言い換えで、イメージが良

くもなったり悪くなったりした経験は誰もがあつたろう。普段何気なく使っている言葉を優しい言い回しにすれば、どんな社会が広がるのか考えてみてはどうだろうか。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



若葉から木の葉が青々と茂る青葉が爽やかに感じる季節だ。